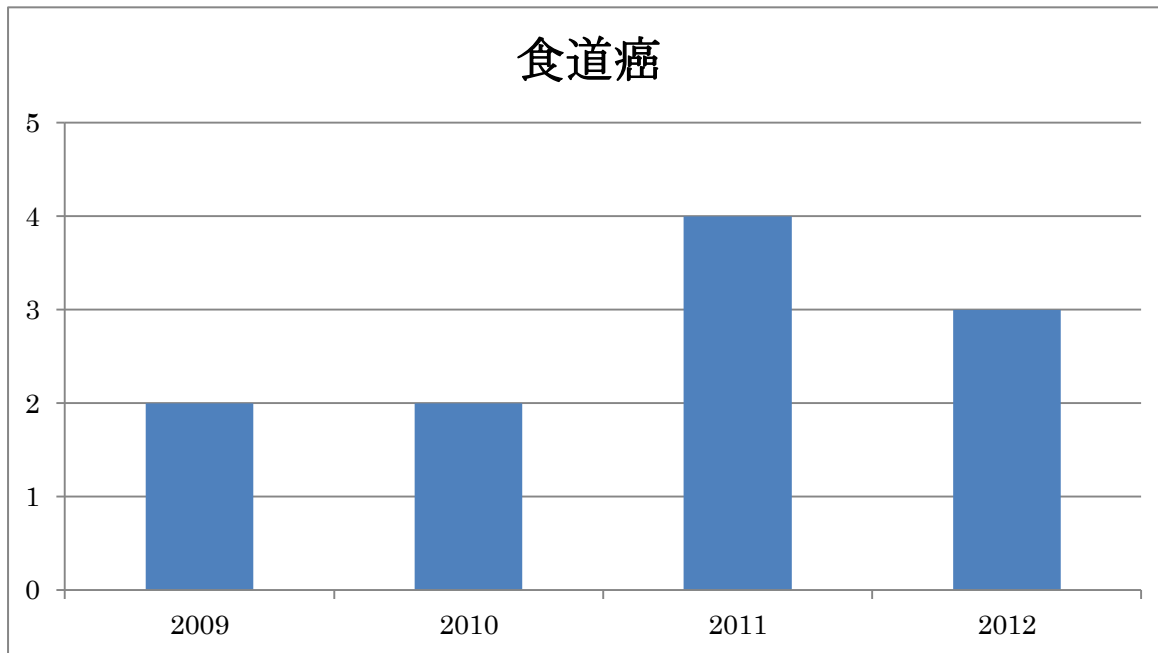


## 食道癌

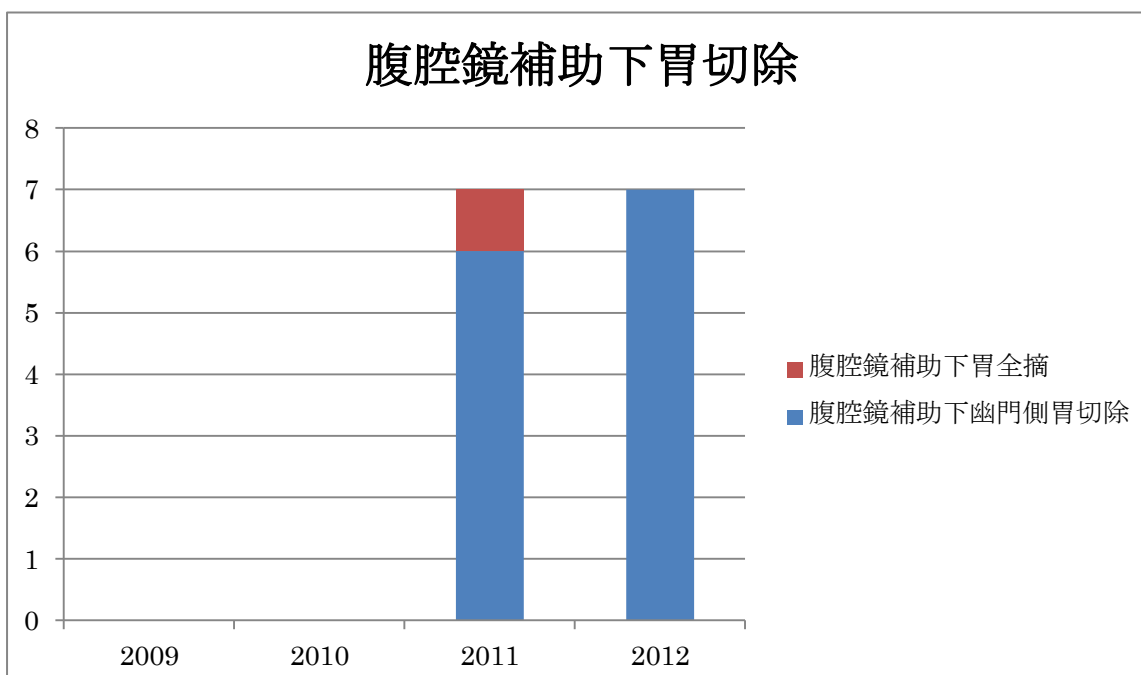
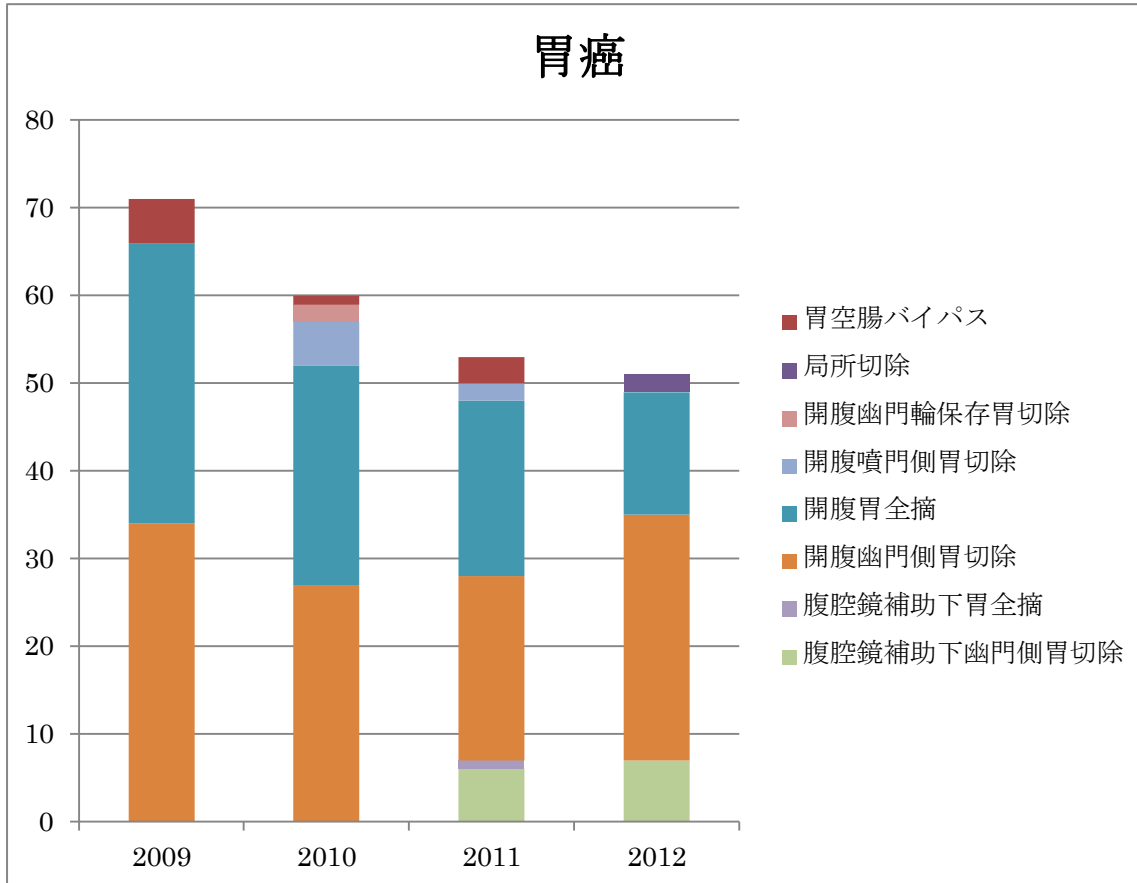
---

食道癌は、食物の通過障害から発見されることが多く、発見時、進行癌で、周囲臓器への浸潤が認められ、根治切除が不能なケースが多い疾患です。これら症例に対し、放射線科とタイアップして放射線化学療法を行い、QOL(生活の質)の改善、延命を図り、効果を得ています。手術件数は少ないですが、放射線化学療法から化学療法を行って経過観察するケースが増えています。通過障害が残った場合には、内視鏡的拡張術、ステント挿入術等を行い、食事の再開を目指しています。



## 胃癌

わが国の消化器癌の中で多い胃癌ですが、その中でもまだまだ多い進行胃癌に対しては、抗癌剤を術後(一部の超進行癌では術前から)に投与して、症状発現の抑制、延命など、予後の改善を図っています。また、早期癌では、創の縮小を図って、腹腔鏡(補助)下の切除術の導入も始めました。当院では年間50例以上の胃切除術を行っており、2011年度からは腹腔補助下胃切除術を導入し、年間7例程度施行しております。今後は、術前診断でリンパ節転移の無い症例まで適応を拡大していく予定です。



胃癌 Stage 別生存曲線

